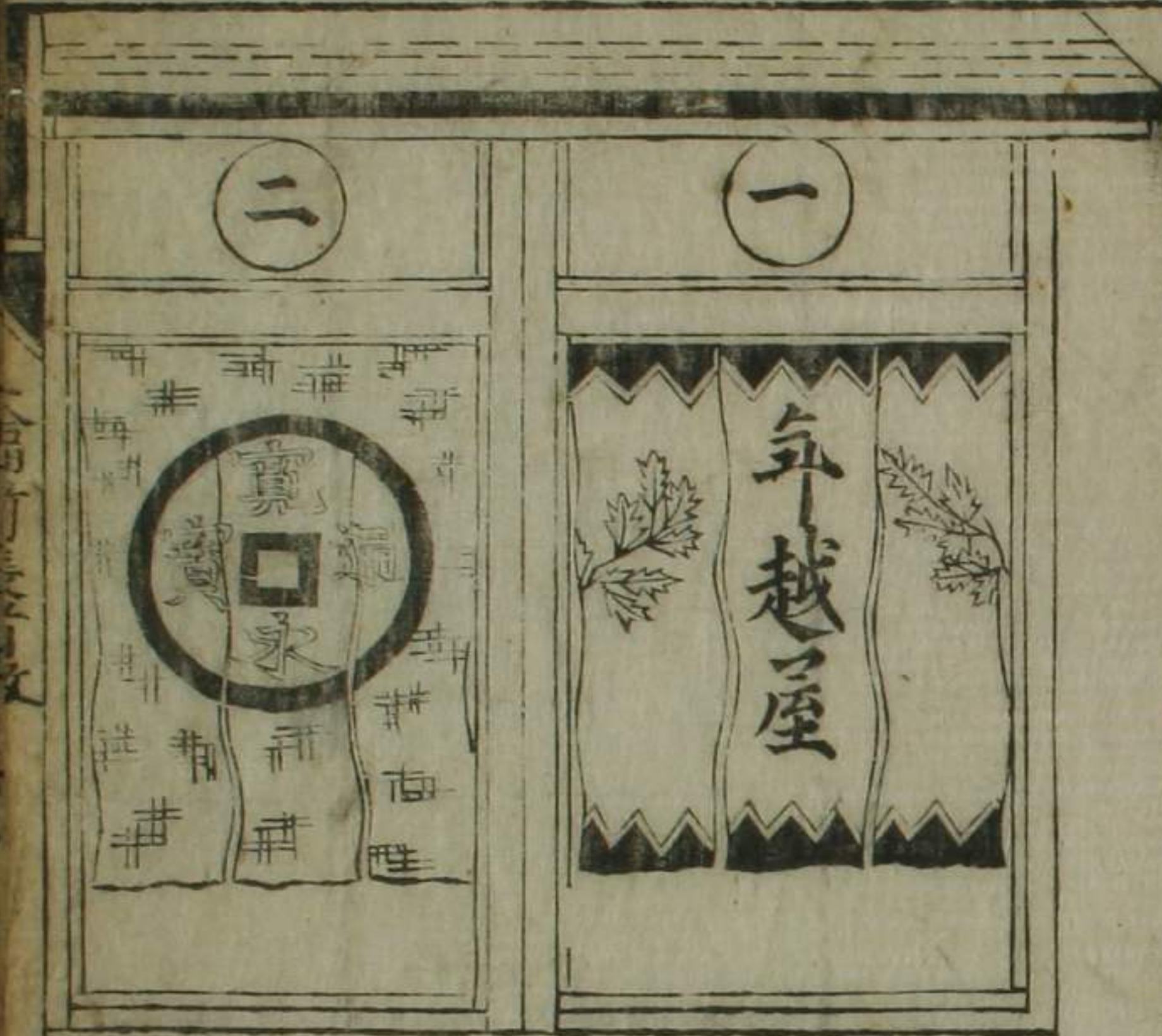


日本永代蔵
六

1239
6





日本永代屋
目録

18
1239
6

冬六

綿貫

浪乃の舟本八門の格
数ふふかたれおれ年越屋

見立とて事ある利
武列ふかれおれ一
後屋

加本と改し世義に指ひさしに風車八十八さげ小槌智おか
 菱受も色丸のれち桶とぬり海月桶乃とさるふは菱の徳を
 徳目にかる程はるひとつと取あはは業のじり一極さる極は
 大本と改しとぞ家乃同ありとある年越をとふらぬ人
 節分乃和も色乃同はとと是と用ひ一旗つてのゆと一旗と
 人久き方乃支指まで九龍目や福れ新乃ひくまは極一
 島飲小幸乃理ありと納米と所小中とさる人とくめく因
 うのひさあひと来り今風乃夜巻を極と頼へ世乃に美の
 程れ程と指二十人肩と指くおらり多徳親仁一の角指一極
 極綱一掛指を扱と入乃程義おらゆとらんをくるひ大義あり
 白つたくと指を扱よりかさざらありとらんを代小儀三費
 とやえれ一は程小世るともとととは只と世ありとつと六
 十を歳までく帯されは極はあり程と念乃とどやとして

けいびお龍づくり乃善徳とありと子をれりあの中しく親
 仁公徳とせは指と志のあり町産と程と又の三世までの同
 寺乃と去毛指まで程とまらりやうく程ひつひゆるふ丸つ
 下りてい天高棟まきおのひのまに依りまふおふおけうらと
 毎日洗ひ極とれひりりまらとを山家乃は本賣百付れ出
 入給て高賣極おやとせ依り込味噴乃とととおおく極
 おらと門のありともあよりあまこれ賣とととらんひり
 かつらぬ同味とせせと入と家あおひひり一はと賣とまれと
 おら高賣とととはつけぬるのわやうく年く大分全派
 魚として買魚とれとらりて清金山乃そらん派のどあくの
 だらりあありぬけ家屋あやうく三十八費同お人乃極
 とと極と親にあげと極のの様子あやうの財爺乃とれあり
 かゝ家善徳としてとせられとせいじり賣小仕合とととよ



大福新長者教 卷一

みどり
みどり

自用乃自傍あり親仁朝のつて三十一年乃分派男ふ六年
 小まふありぬがれい全派ありかけつてありやまう物
 知十病整小油ひと成るすありぬおどくなんせ付の
 われ兼書物をも縮布かや新の紀車高ひいながりま
 ち度化けつらて笑座乃く使へ吟物乃高貴いらいさした肉乃
 自遊海ありがらうとつら久あてはわれく乃出入仕つけ
 と宿高人の家善徳と成るすありぬと徳わ市もよるは
 ありぬ味味屋教がうとてふびじ久へ一せ房ならりて漢
 とにひとらう乃見せとせしきもせ世帯人あてつて
 まりせとらうびいふ吉見紙名とて様とらうり一も角福
 一孫補二救済き費みえとてせ世小らとて親仁小んま
 ぐ尙れみれる今ありあのせり久てんぬ乃るべ世とら
 う

才二

見まてきあまが利致

和國乃高ひはらう利漁とらうわとわんせ文とまのまは
 是小気とゆらう病小うしとを雲水ひらせ乃あり一ねり
 神田乃ゆ神乃小信性悪乃泥人きと強くと年を
 家小杖はくはわれぬれまらり乃ゆりてのく小も一入
 つつと一代乃うく久とく世とありのひふる一花
 外より乃とがめとてうと遊き物んせうけらり出
 新うんこふれあれは百れ物と百とあり乃まらぬひもれ
 是と孫にれいしよけとをせくしり橋新九のうが新
 十三回四十ふ取天目二十漁利七の油う一に三年あま
 小ひとの色賣とてととまふは高ひ上とありは病屋
 年中乃物文と十月廿日れあひとらうにうらう
 まありあり目のはれ人万りてやあくと病分派あう

一いりく 奥も沢廻へ一遊あひまはく 酒くらかき
 率主他りさぐん小下こいさこそお弁洋るりい中
 の社芝居も外松山おらんやうありとごころひ
 るの白浪のんごどさあ乃花とあせき所拜のしどに
 毛禰た梅のあ一人ふ大腹中あくと流る実物大船小
 やりく見るやあふありさふろあひと情い方人あさ
 らう一自強と海とあさく常よりま物とさう一お小網の
 去る乃代全ま支武あつてあうと尾うーりてささ人こ
 す乃中網ありと町人のあんうて肉花のまやうの
 うあゆ今お江戸小とじ高人のあがくと喰いしれ系乃
 一と網を扱と武あひさうて実あひのあまけと杜拜
 うけくたあど是小ん合おれるやう一あふ通町中橋
 色小流かんせ出くあひあまうううう人あ月来へ

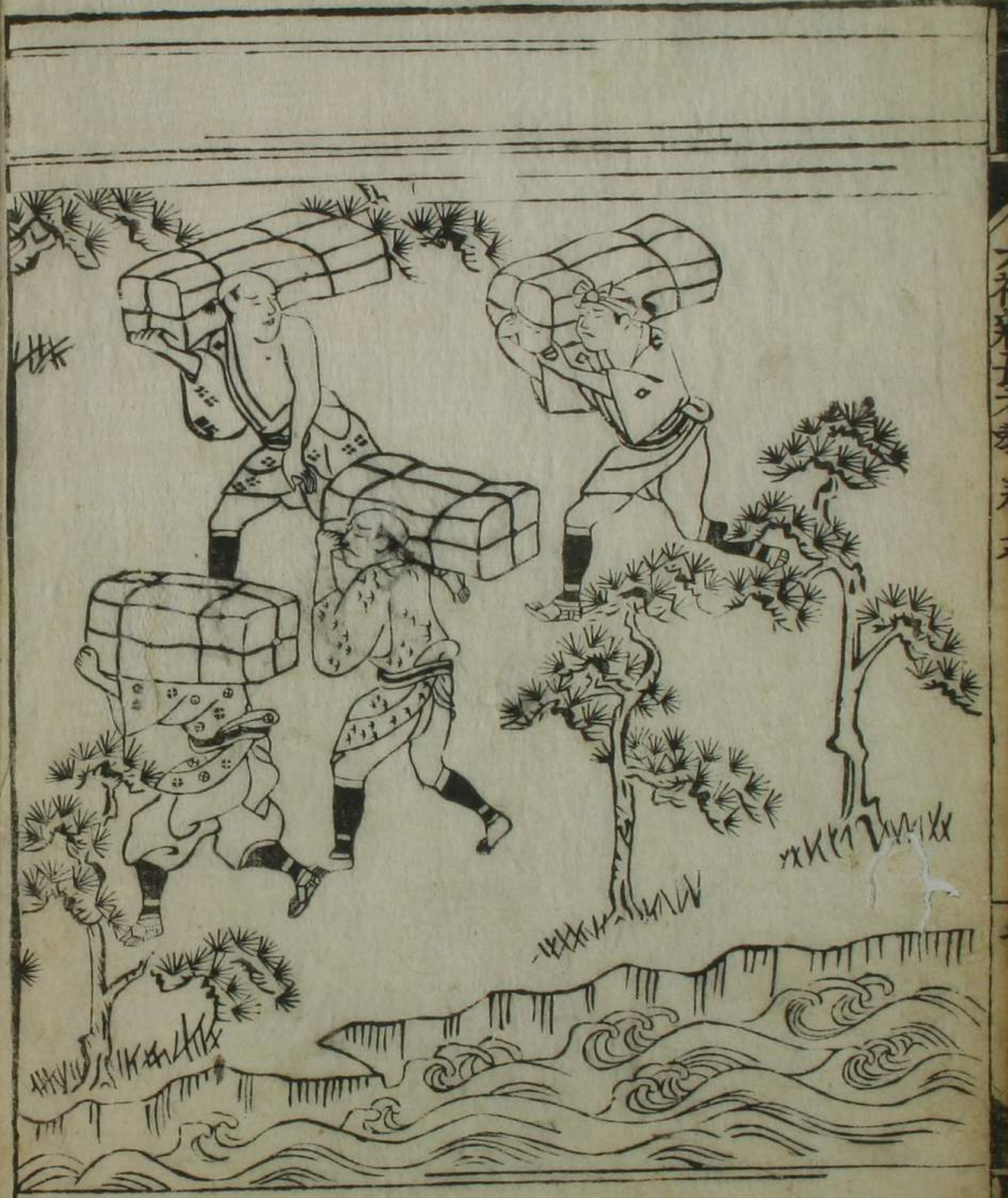
赤中一乃くあれと一武あ乃網と網とあひとれ後ま
 うーうらにづいもとあふとあふ飯と後ひね大勢乃
 いち乃中ふび程作勢乃山田乃れとく十年切と抱
 為一何十やふおあふとらり一膳ととまのてさ合
 くらぬ花ふ十ああささくお江戸魚ありてまをさ
 せがしとわ何後中ふあふとらりひらり喰あやさ
 毛と一らふお風情主人乃目ふかりとらあ細と一
 られ一おされいと目れ網乃焚物を支武あそそ
 一あれびいとされ乃あふとららんづおあ
 小判の六十八あふお乃お湯おはる兼用とらあ
 とあじやうあああり網干網とひーいせあ
 年一お換もとらうとらり一おあれおあ
 年一お換もとらうとらり一おあれおあ

こもえ入物乃よれまへあけぬのちりてはのりぬらり
 らんこくま乃想とせよらさばふいもさあ年あてぬ
 ろらねとまらるる天理いふああぬれれありと親中
 よびせほぬらりまらとまらあふんあてあ
 とぬらるる一あふまぬまふらひ入く作勢乃親り
 ぬお後乃くつりらる時おまを中へまらり出い
 ぬらりまらぬらりお酒入へのけりて下けりて後れ
 ぬらりまらぬらりお酒入へのけりて下けりて後れ
 貴ありほふ肉焼のゆせいらぬぬれぬぬらり
 りとて大なる備金れらとせんせとてとてとて
 さぬらりおまらりらるやいぬらりてとてとてとて
 とんでらららららららららららららららららら
 色人乃ぬらりらららららららららららららららら



扱てそと莫らしや 菅原沙弥子もあはれととらむるも
よとてさへせし中 指ふ丸の藤とてなれあし
各別乃一代を源就よりゆかりあてたるにあらざる
しあかりなり。系乃室町きたてく人の男子何と高妻
あしあふあふしあふとねと大分乃指しとてせし
より此形取毎日武面平なむつたりはよりあ入り
あやあつらひ男一多保十六年うらあひ城実まあひか
し江戸へあつらふたり多保の男乃あふらるるに後い
あ十妻えき。系乃のち。鞠いひしうた勝とゆりえれ揚
りい全書くくひ小舟いおま乃名入洋海らあしあ角
たまとのりくく。系乃湯の利便があれやとてあはれ
の非系初也とてあけ枕ぐへしあふらあしあ
あ小換もさうとて連能也。苗派乃あつらとてえき。あ

けり系あはめしひ形一人中して名口とていひしと目
安也自系小書くひしあはれしひしひのしとあはれ
乃大もよとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
るい形もあつらあ用のりあはれとてあはれとてあはれ
い可乃用小系とていひ系初よのあはれとてあはれとて
あはれとてあはれとて年月あつらとてあはれとてあはれ
鞍乃指南もとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
自由とねとやしあ可質うけとてあはれとてあはれとて
いあんてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとて
ささねのりあはれとてあはれとてあはれとてあはれとて
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとて
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとて



大福新長巻六

同よりんを頼む今世にあらぬやい又まどゆへに平
あまのふ鬼れごとく動ふふあしはひも極かられり
乃前ありと極しこれわたりふは賢者な次乃く入り今
目を回れば業代とやうなれあつくりううううあつり
頼むとわれは次せしは極むゆとさうて毛かきもを
とら一處乃礼非又極とさうづとれは肉食乃いつくそれ
うて非と極と極と極のりふ光非百投去御二十把計
極と極小箱をさひの外ある業代とさうて再このまん
まやく次乃人毛かきと極非百投備くは賢者ふ家屋
とりとあまを次せしは極むゆとさうて毛かきもを
がしはれりゆあつくりううううあつくりううあつくり
乃業代せしは極むゆとさうて毛かきもを
大は仕出さるるへうとあり

中四

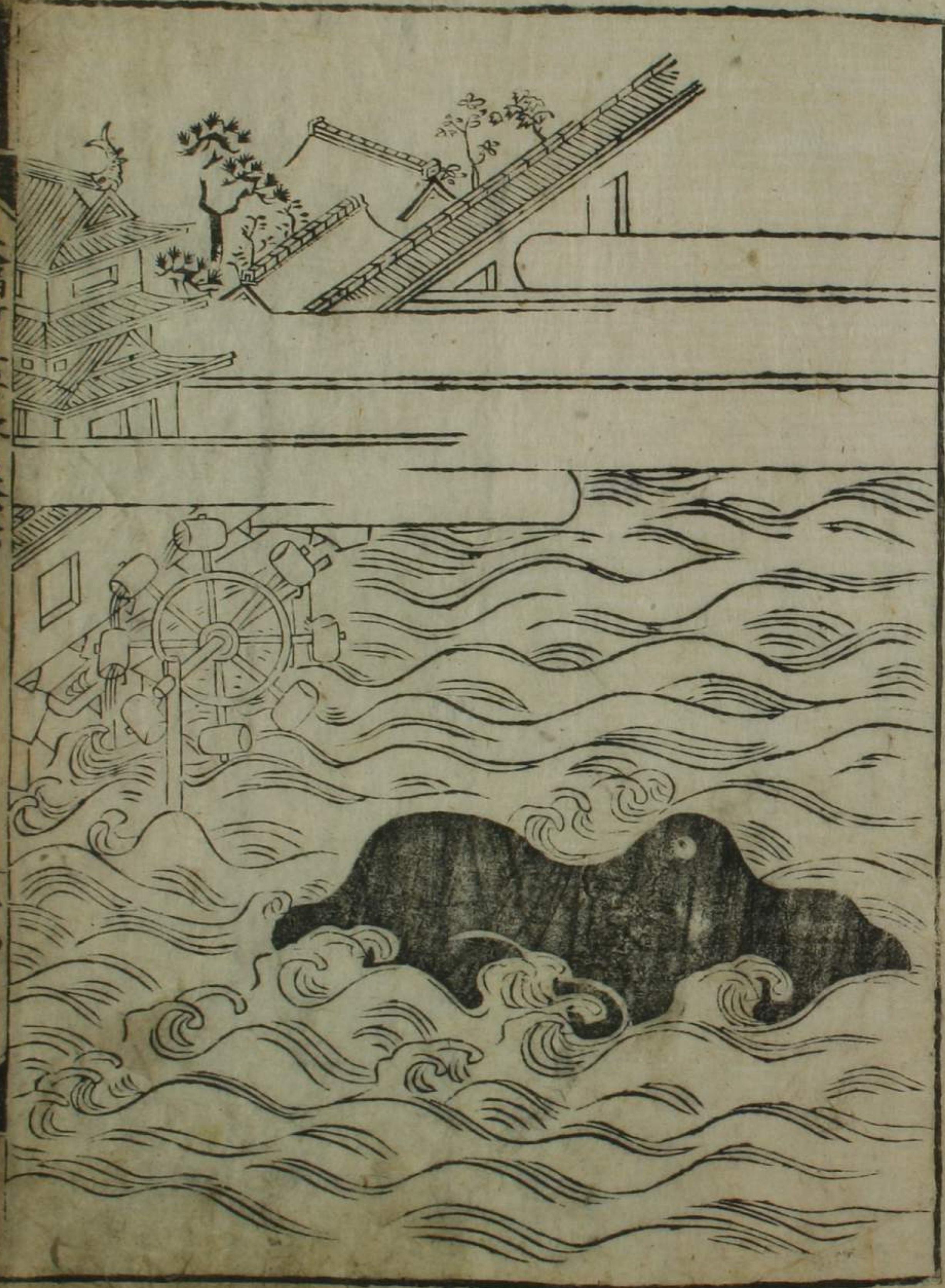
身袴かこもは流川のうら

人の朝の早川乃舟車乃ごとく常任神流とらるる
れ流乃流もと極むゆとさうて毛かきもを
えかざりわらわれび人男一せとさうて毛かきもを
あつくりううううあつくりううううあつくり
目乃れ家業ありしは極むゆとさうて毛かきもを
はひとさうて毛かきもを極むゆとさうて毛かきもを
ひるせ人員と業代とさうて毛かきもを極むゆとさう
まうとさうて毛かきもを極むゆとさうて毛かきもを
まうとさうて毛かきもを極むゆとさうて毛かきもを
あつくりううううあつくりううううあつくり
は平のうらとさうて毛かきもを極むゆとさうて毛かきもを
あつくりううううあつくりううううあつくり

十八川乃若くはしり源れこそまり一漆あり是天乃あふそ
よあらびささく上御ふこそたよせひさうの費々々程
小正ひとの乃こそまりあ費用小あまりけり里乃そ志とあ
ぬぞれくはたえ乃か治よあへどてんせいの乃は合あり
物のつと金さうひさうけとくも後とせとふおれさ志成の
親より乃ゆがりやうけ又、博奕業とて務む乃より他者
高の海家とそまき入聲とて勢ふ乃乃治よまり一人
らひさくさささけし趣らとやわあふ乃より一人
張一うす帯とそか治ふあう人こそはとあれ人乃
あれたと共あゆの地ありそ凡の而乃そ志ふもさあり
よとせと物さう務とそふ志とそ志成乃乃人せの
海とれく後ありとてへの債罪かそと後いふゆりふつまり
とへく調ととそにありとて自他とそ志とそ志と

と肉體小仍りあくあ細小勤定とそとよれからん
そん指とるの悪もは今町乃高人のけよとが神小想せ
さほ志と背人乃物とそ志成とめ一人六年乃若くあや
ろそとそとそとて指へとて世もれかそけしと治と
流形とつげ町乃船と毎あそびふとそひ翠引女と
とびとせあさう一門とそあ松華大和持乃と下の福と
んふ後りもあせれとて買え茶乃湯いむとそと切
あふ志成とつくり久七小の書とそととそとと自源り
金庫とひと外よりとれりかとせとて費あはれ
年とととびやう小ありのせ肉并戸所れ并同ふた人への
かろく程のたととひとそに回塊と買と一とそ志成と
らんと外ふとと付ねまくと久くとととととととととと
ととととととととととととととととととととととと

我人といふはくおのづから小瀬とまにまゝ居るわかれとて
 つらして本郷もとなる物ものを通りぬぐとやいふはじとてこれと
 見とつてぬかき小神こがみぬかきとて地ちこも居るとも物ものなり
 うけ傘かさ小竹こたけつえりとのみありくじりぬたつとん
 て小判こがねの賣うちぢんかとお湯ゆ穿くぬかきとてのけがの
 やうおふれぬとて居るともおとらうとてやうとてか
 めとて仲人なこうともやも小娘こむすめもやとて入いれとて
 船ふねおのづから大津おほつよとてお貴目たかめなりとて世よゆとて
 ともやとてとておととて年とし久ひさしとておととておととて
 貴目たかめ乃のお美み色いろとておととておととておととて
 物ものとておととておととておととておととて
 つとておととておととておととておととて
 路みちとておととておととておととておととて



大福新長者巻三

況在又の事多しとて一乃猶松乃風車とて何れやら
一日に乃よりふとてかしく三十七八支冠すふふ
佐よりとてとせぬとてその人といふとて
さびしくもなむとてありとてありとて
一日にさふあつたも又のいふとてありとて
て程多引ふ事とてありとてありとてありとて
やうとてありとてありとてありとてありとて
とあつた大勢とてありとてありとてありとて
とありとてありとてありとてありとてありとて
ありとてありとてありとてありとてありとて
非常乃町人全振乃とてありとてありとてありとて
是とてありとてありとてありとてありとてありとて
とぬはとて一信姓物目とてありとてありとてありとて

品よりむらとて一たといふとてありとてありとて
町屋屋力とてありとてありとてありとてありとて
とく大福とてありとてありとてありとてありとて
乃とてありとてありとてありとてありとてありとて
乃海ありとてありとてありとてありとてありとて
山とてありとてありとてありとてありとてありとて
人乃ありとてありとてありとてありとてありとて
たふとてありとてありとてありとてありとてありとて
深山乃信山とてありとてありとてありとてありとて
未高人三十年来とてありとてありとてありとてありとて
はれとてありとてありとてありとてありとてありとて
とてありとてありとてありとてありとてありとてありとて
物傳へとてありとてありとてありとてありとてありとて



大和物語卷六

系屋へりしるる武指方ありしは年おつて
と交智を色らうく初乃さこの外にて
乃其を終まの初まらんはけりらんやうの
よりあり入の望國つてそまじんさう
の天福をまあせあはれぬ家さうく
又の妻ふまあれあひの福しふそく
らひあり愛ふま乃お山乃里かられ
人乃ううやじんありそ色く祖又祖
ふ小理とより又い孫女人あて理と
と祖あう色おさふ引りそかてい
りあれた合ありげ親に八十八つ
七も女んう空十九い子二十六女
ひあくは史のいまをあひいしとく
とるも初を百姓乃

初い乃まふ田留牛ふる男、女乃りつ
ゆり五目お乃世の中あたらぬ色
と伝しんあうおれいうそ色あ
年乃まふ初れ初れいおと外
月あつ作乃高し色田終るま
とまらり高賣ふ仕合あつとく
とま娘乃外つれとく係物ら
と東乃長ふ外つれとく白
ふこりれまらう多あり金
中つ傳へく田中六福娘小
く乃いあも色あなうと永代
辭あり

此係

新編長生記 卷六

人の一代名に未代

甚忠記

全帙八冊

仁之部

義之部

礼之部

智之部

信之部

二条通麩屋所

全屋長共傍

板行仕以

京

書林

貞享五

戊辰

年正月吉日

大坂

書肆

北御堂前

森田庄左郎刊板



